
凶器はナイフ

Y J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

凶器はナイフ

【Nコード】

N8546C

【作者名】

YJ

【あらすじ】

ナイフで何かを切る感覚に取り付かれ、新たな感覚を求めて外へ飛び出した変態青年の話。

ナイフが好きだ。

色、艶、形、どれをとっても申し分ない、ステキだ。

大きすぎてもダメだ。

刃渡り10センチほどの折りたたみの方がいい。

機能性に富み、持ち運びも便利だ。

ナイフで物を切る感覚は堪らないものがある。

自分の腕にナイフをあて、軽くナイフを滑らすとスパッと切れて、血が流れる。

生身のものだと、それこそ至福の感覚があり、気絶してしまいそうになる。

気持ちいい……。

それは、切る感覚であり、血を見て気絶しそうになるものではない。

一瞬だが、その切れる感覚が堪らなく癖になり、何度も何度も自分の腕を傷つけた……。

今では、俺の腕は傷だらけになっていた……だが決して後悔はしていない。

切る感覚が、たまらなく気持ちいいのだ。

いつしかその感覚は薄れ、もう二度と快感を得る事はない。

人間の持つ 慣れ と言う感覚だ。

初めて自分の腕を切った時の感覚はもうそこにはない……。
あの至福の感覚を味わうことは、もう無い……。

だが、ナイフが好きだ。大好きだ。

ある日、俺は思ってしまった。

これで人を刺したらどうだろう……。

別にそれは、人でなくてもいい、生きる物を切る感覚を味わってみたくなった。

自分以外の　　生きるもの　　を刺す感覚を求めていた……。

そう思うと、出ても立ってもいらなくなり、部屋を飛び出して来た。

もちろんこう言う時は、俗に言う　　お出かけ用ナイフ　　を持ち、外へ飛び出した。

刃渡り10センチほどの、折りたたみタイプの物だ。

毎日、研いで大事に押入れにしまって置いたナイフだ。今思うと、今日の日のためのナイフなのかもしれない。

外へ出ると俺は、ひと気の無い道で獲物を待った。

昼間だったが、もうそんなことは関係ない。

もう、誰も俺を止められない。

俺は獲物を見付け背後から素早く首元へナイフをあて、片手で口を塞ぐ。

男でも女だろうが、そんなことはどうでも良かった。

「大人しくしないと、お前を切る……」

獲物の耳元で小声で囁くと、俺は興奮して心臓の鼓動で胸が破裂しそうになった。

この緊張感も堪らないが、大事なのはその後だ。

奴は耳を傾ける素振りも無く、バタバタと体を動かし抵抗してき

た。
俺は我慢が出来なくなり、軽く首元へナイフをプスツと刺してみ
た。

もう……至福の感覚がそこに蘇った……。
俺が求めていたのはこの感触……。

気持ちいい……。

堪らなく気持ちいい感触に、気を失いそうになる。
奴は、自分の血を見てか、さらに激しく抵抗する。
俺は我慢出来なくなり、室内へコイツを連れ込んだ。
俺は、コイツを縛り上げ、机に仰向きに寝かせた。

「これからが、本番だ……」

どうしようもない感覚……至福の時間がそこにはある。
ナイフを胸元へあて、プスツと刺し、そのまま腹まで滑らせる……。

「うっうっ……」

脳では脳内麻薬が大量に放出されているのを感じ、今にも倒れそ
うになる自分の体を奮い立たせる。

気持ちいい……。

言葉にできないほどの感触が ソコ にはあった、今まで感じた
ことのないものだ。

その時だった……。

「なにやってるんだ!! やめる!!」

必死な男の怒号が俺の背中へ浴びせられ、俺は声の主を探した。

俺が振り返ると声の主は、俺の元へ急いで駆けつけた。

俺は自分の脳内麻薬で気絶しそうになる自分を、平常へ保つことで限界だった……。

俺の動きは呆然とした。

声の主は、すばやく俺からナイフを奪うと、こう言った。

「お前にカエルの解剖は、まだ早い!!」

その声を聞き、自分の意識を取り戻す。

「先生……ごめんなさい……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8546c/>

凶器はナイフ

2011年1月2日14時16分発行